

「慶應大の学生が地域と二緒に考える」
本市と慶應大の共同研究「高橋地区の未来と課題」開催

本市の人口減少は、10代の若者が大学などへ進学するため都会に出て、卒業後も都会にとどまるのが主な要因の一つです。高橋地区は、市内の中でも人口減少が著しく、現在、地元の人たちが主体となり、地域活性化の取組みを進めています。

本市と慶應義塾大学は、同地区の将来を一緒に考えるため3月1日から3日間、共同研究を行いました。持続可能への抱負を述べました。

な開発目標(SDGs)の研究に取り組む同大学の蟹江憲史教授、国谷裕子教授、学生18人が同地区に滞在し住民らから聞き取り調査等を実施。但東中学校の特別授業では、生徒と学生が但東地域の未来を真剣に議論し、高橋地区では、さまざまな世代の住民と学生が「未来と課題」について議論しました。蟹江教授は「何か一つでも実現したい」と将来への抱負を述べました。



▲大学生と生徒の特別授業(但東中学校)

「在住外国人の暮らしをサポート」
5言語の生活案内情報「豊岡市リビングガイド」作成

本市で暮らす外国人のために、ごみの出し方などの身近な暮らしの情報をまとめた生活案内情報「豊岡市リビングガイド」の多言語版を作成しました。この冊子は、行政機関で必要な各種手続きなどの他、結婚、子育て、病気・けが、税・年金の窓口情報、また、いざという時に役立つ「緊急時(困った時)の日本語」などを記載しています。今回これを

中国語の簡体字と繁体字、タガログ語、ベトナム語、タイ語の5言語に翻訳しました。一昨年に発行した英語版と合わせ、6言語版の完成です。また、分かりやすい単語を使用した「やさしい日本語版」もあります。

この冊子は、秘書広報課などの窓口で配付している他、図書館やコミュニティセンターなどに設置しています。



▲新たに5言語に翻訳したリビングガイドの表紙イメージ(中国語(簡体字))

「豊岡市基本構想」
ロゴマーク完成



平成30年度から始まる12年間のまちの指針「豊岡市基本構想」を象徴する新しいロゴマークが完成しました。

新しいロゴは、基本構想で掲げるまちの将来像「小さな世界都市」を本市の東西の標高線とコウノトリ、南北の標高線の2色のラインアートで表現するとともに、植村直己さんの冒険と憧れの地、北極と南極をイメージしています。

このロゴは、市のパンフレットやプレゼンテーション資料などに使用します。

「主な市政の動き」

【2月】

- 13日・豊岡Uターン就職企業研究会&交流会2019(大阪府)
 - 16日・植村直己冒険賞」受賞者発表
 - 18日・とよおか地域づくり大会2018
 - 20日・豊岡市空家等対策協議会
 - 21日・豊岡市地域公共交通会議
 - 22日・豊岡市都市計画審議会
 - 23日・市議会定例会開会(3月27日)
 - 24日・湿地に関する講演会「生きものたくさんのピオトープづくり」
 - 25日・豊岡市バスケットボール教室・指導者講習会
 - 28日・豪雪災害警戒本部廃止
- 【3月】
- 1日・慶應義塾大学との共同研究(高橋地区でのフィールドワーク)(3日)
 - ・豊岡市地域福祉計画推進委員会
 - 2日・「コウノトリ育むお米」ロサンゼルス販売プロモーション(4日)

春に豊岡から巣立っていく可能性だらけの若者に向けたメッセージ 「わかもの巣立ち応援プロジェクト2018」ポスター市内各所に掲示

今年も昨年引き続き「わかもの巣立ち応援プロジェクト2018」ポスターを作成しました。本市は、豊岡を巣立つ若者を応援します。卒業おめでとう。飛んでいけ。



豊岡高校



豊岡総合高校



出石高校



日高高校



近大附属豊岡高校



大岡学園



クラーク記念国際高校



Next Green 但馬



平尾商店



そば庄



全但バス(株)

中貝市長の徒然日記 ⑫ 南極と北極の冒険

今年度の植村直己冒険賞受賞者は、荻田泰永さんです。南極点に無補給・単独・徒歩で到達。日本人初の快挙です。

でも、実は、荻田さんは「北極冒険家」と呼ばれています。北極点を、無補給・単独・徒歩で目指して2度挑戦し、2度とも撤退しておられます。温暖化で氷が解け出していて、北極での冒険は困難さを増しています。しかし、荻田さんの挑戦は止まりません。

その北極行への応援も込めて、選考委員全員一致で賞を差し上げることになりました。「自分のルート上に、南極の生物は何もいなかった。雑菌もない。匂いもない。ただ風の音がしていた。あくまで北極との比較だが、自分にとって、南極は簡単だった」「南極は大陸で、基本的に氷は動かない。北極は、氷がぶつかり、軋み、バキバキ割れる音が絶えず聞こえる。重機で建物を壊すような音だ。シロクマも襲ってくる。人がいるべきでない、恐ろしい所だ」記者発表で、植村さんとの関わりに質問が出ました。「植村さんは、自分にとってリアルタイムではなかった。しかし、北極でお世話になった人たちから、植村さんのことをよく聞かされた。人柄。謙虚さ。植村さんは、彼らにとって特別だった。植村さんが築いた信頼関係のおかげで、今の自分の冒険がある」会場から発言がありました。「植村さんは南極を断念したけど、荻田さんの話を聞くと、北極がいかにすごいのか、北極点に到達した植村さんがいかにすごいかがよく分かる」その瞬間、会場内に植村さんの気配が漂ったような気がしました。「植村さん、フォーランド紛争で南極への挑戦ができず、無念だったでしょう。でも、もういいんじゃないですか？ 人類史上初、北極点単独行、すごいですよ」。ふと、そんな思いがしました。荻田さんの決意。「北極を2回やって、なぜ失敗したのか分かった。なので3回目をやる」。その挑戦にエールを。

2~7 特集

8~9 市政ニュース

10~14 クローズアップ 豊岡

15~23 暮らしの情報

24~25 保健行事

26~27 図書館・つどいの広場

28~29 主な相談・主な行事